

(5) 東海



東海地域では、景気は足踏み状態となっている。

- ・ 鋳工業生産は減少している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

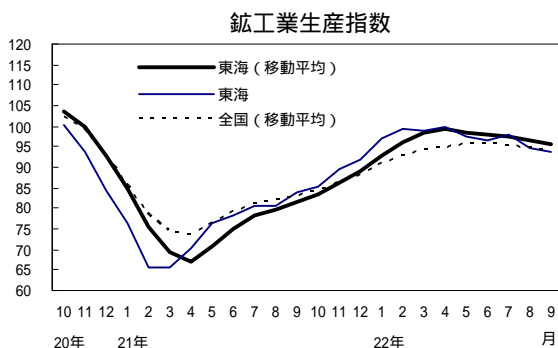
前回調査からの主要変更点

	前回(平成22年8月)	今回(平成22年11月)	
景況判断	緩やかに持ち直している	足踏み状態	
鋳工業生産	緩やかに増加しているものの、一服感がみられる	減少	
住宅建設	減少	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鋳工業生産は減少している。

輸送機械は、乗用車や自動車部品において、エコカー補助金終了に伴い需要が落ちていることから、減少している。一般機械は、金属工作機械の前期におけるスポット生産の反動減を主因に減少している。電子部品・デバイス、前期比マイナスとなったものの、液晶素子がテレビや情報通信機械向けに好調であることなどから、高水準で推移している。プラスチック製品は、工業用製品やフィルムシート・合成皮革が自動車産業向けなどで減少している。化学は、医薬品が高水準で推移しているものの、プラスチックがメンテナンスにより一時的に減産したことにより、減少している。



- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。
2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

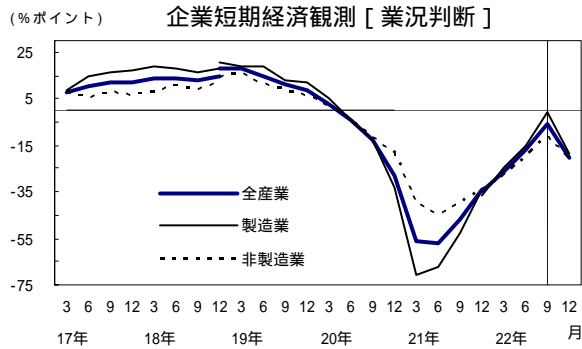
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
輸送機械	37.5	7.2	3.4	2.7	15.3
一般機械	12.7	17.7	2.2	1.7	1.5
電子部品・デバイス	6.8	12.0	3.9	5.7	15.8
プラスチック製品	5.4	4.5	3.9	2.6	0.2
化学	5.0	0.8	1.6	0.7	1.2
鋳工業	100.0	0.5	2.5	2.6	0.1

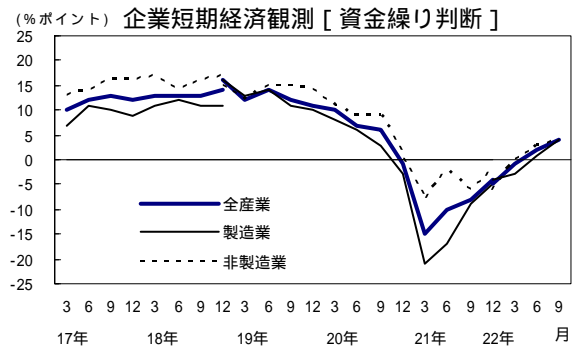
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

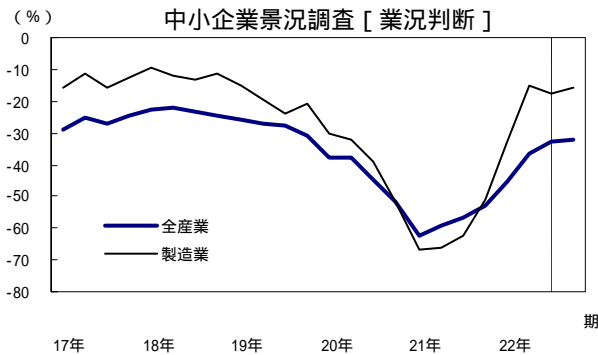
(2) 業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年12月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「10月の受注額は、7月とほぼ同じである。もっと落ち込むと予想していたが、今のところは堅調に推移している(輸送用機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

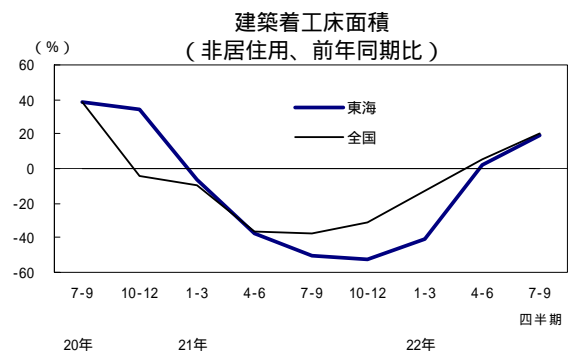
(3) 22年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	31.9	14.4[14.3]
製造業	49.9	18.1[17.7]
非製造業	5.8	11.2[11.3]

(備考) 1. []は前回(6月)調査結果。

2. 21年度実績はリース会計非対応ベース、22年度計画はリース会計対応ベース。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

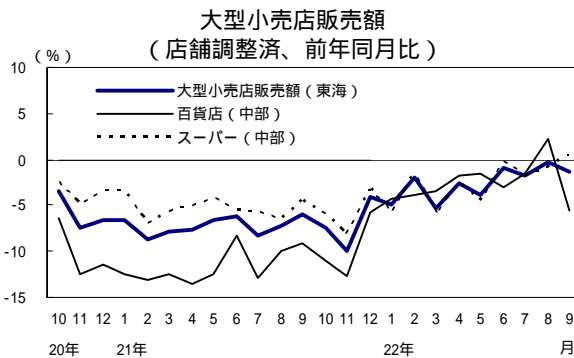
大型小売店販売額

百貨店は、7月は、月前半の長雨により夏物衣料の動きが悪かったものの、一部店で中元の実績が前年を上回ったことなどから、前年比の減少幅が縮小した。8月は、一部店の閉店セールや、猛暑による飲料が好調であったことなどから、前年比で増加に転じた。9月は、残暑により秋物衣料の動きが鈍かったことや、祝日の日並びが悪かったことなどから、前年比で再び減少に転じた。日本百貨店協会によると、10月の売上高は名古屋市で前年同月比2.9%増、名古屋市を除く中部地区で同1.2%減となっている。

スーパーは、猛暑、残暑の影響により秋物衣料の動きが悪かったものの、飲料やアイスクリームなどの盛夏品が好調であったことや、生鮮価格が高めに推移したことなどから、前年同期比の減少幅が縮小した。

景気ウォッチャー調査(9月)[家計動向関連(現状)]

「個人の宿泊数は4月以来毎月順調に増えて来ている。法人の利用については前年よりは良いとはいえ、まだまだ前年の水準までは回復していない(観光型ホテル)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



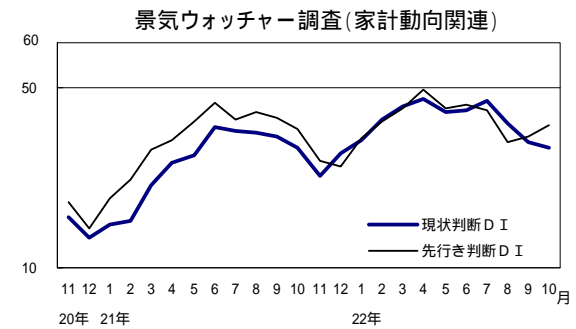
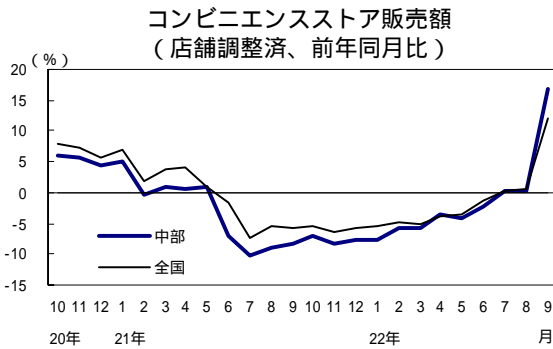
	(前年同期比、%)			
	21年10-12月	22年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	7.0	4.2	2.5	1.1
百貨店	9.5	3.9	2.1	1.7
スーパー	5.7	4.5	2.5	0.8
乗用車	19.7	24.1	25.3	5.2
景気ウォッチャー	34.1	42.4	45.8	42.3

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

百貨店、スーパーは中部地区。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

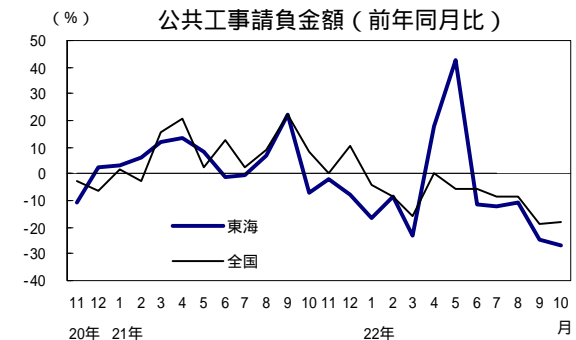
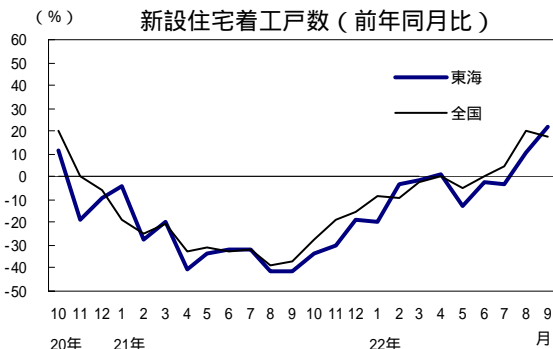
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家が前年を下回ったものの、分譲等が上回ったことから、全体でも大幅に増加している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

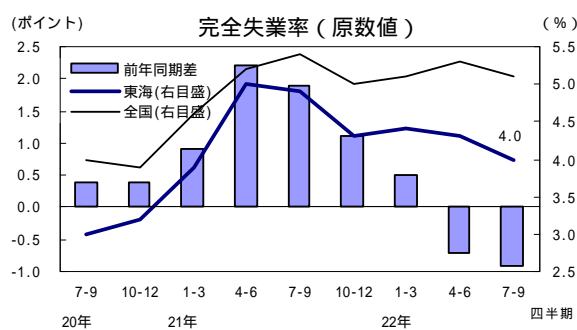
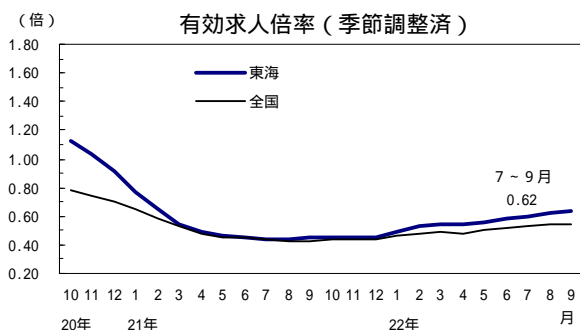


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(10月)[雇用関連(現状)]

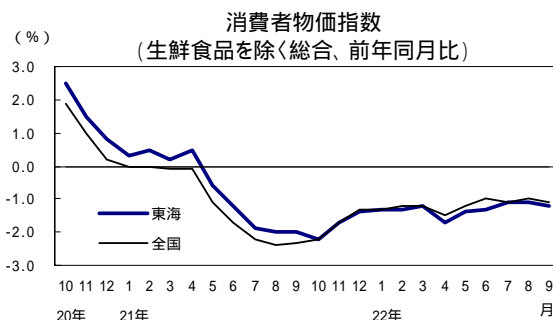
「企業の採用意欲には大きな進展が見られず、メーカー等においては海外シフトのあおりで、国内の雇用コストを割けない状況にある(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年10-12月	22年1-3月	4-6月	7-9月	22年10月
倒産件数	377	363	327	334	127
(前年比)	9.9	12.3	0.3	7.5	8.6
負債総額	832	574	584	976	136
(前年比)	39.1	75.1	62.2	36.2	59.0



景気ウォッチャー調査(10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・COP10 関係の会議に関連した昼食等があり、販売量は増加している(その他飲食[仕出し])

<先行き>

- ・来年に向けて、新機種への設備投資が増えてきている。今後も増加する(輸送用機械器具製造業)。

